



平和資料館

草の家だより

No.166

2025年3月20日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail grh911@dream.jp HP <http://www.maroon.dti.ne.jp/kusanoie/>

民主主義を蘇らせた「ひかりの革命」

金英丸(キム・ヨンファン、民族問題研究所対外協力室長)

2024年12月3日、韓国の民主主義はユン・ソンニョルが起こした内乱、親衛クーデターで深刻な危機の瞬間を迎えた。自分の政治的危機を回避するために、ユン・ソンニョルは非常戒厳を宣布し、国会に軍隊を乱入させる暴挙を犯した。非常戒厳が発表されると、市民たちは直ちに国会に駆けつけ、軍隊を体を張って阻止した。国会議員たちは正門が封鎖されると塀を越えて国会議事堂に集まり、戒厳解除を議決した。12月14日、ユン・ソンニョルは国会で弾劾が議決され、憲法裁判所の罷免決定を待っている。憲法裁判所の弾劾審判の過程で、ユン・ソンニョルは自分の過ちを反省するどころか、部下に罪をなすりつけ、恥知らずな嘘を繰り返して市民の怒りを買った。市民はまったく眼中にない「裸の王様」、「破廉恥」そのものだった。



血を流して勝ち取った民主主義を回復するため、毎週数十万人の市民が弾劾集会が開かれる民主主義の広場に集まった。朴槿恵を弾劾した「キャンドル革命」に続き、ペンライトを手にした若い女性たちが先頭に立ち「ひかりの革命」の歴史を新たに書き始めた。集会に参加できない市民は、ネットを通じてカンパを集め、フードトラックを送って食べ物を分かち合い、寒さを乗り切るための「暖房バス」を送ってくれた。ユン・ソンニョルの暴政の下で苦しんでいた若者たちは、手作りの旗を掲げ民主主義の広場に集まった。K-POPが流れるデモ行進は、コンサート現場を思わせる祭りの場となった。労働者、農民、障がい者、女性、性的少数者など、社会的少数者が民主主義の広場で「連帯」し、「歓待」する「ひかりの革命」はいまも進行中である。



時代遅れの「反共」と「反北」を信奉するユン・ソンニョルは、2018年の強制動員大法院判決の無力化を試み、福島「核汚染水」放流を容認し、歴史否定論を扇動する自民党政権と一体となって日米韓対北中露の対立構図が強化され、南西諸島にはミサイル基地が大幅に拡大され、九州、四国をはじめとする日本全域の軍事基地化が加速している。ユン・ソンニョルが政権を握っている間、南北韓関係は最悪に悪化し、東アジアの軍事的緊張もますます高まっている。

韓国市民の民主主義を守る闘いは、東アジアの平和を守るための闘いでもある。私たちは必ず内乱首魁ユン・ソンニョルを監獄に送り、民主主義を守り抜くだろう。

「戦争は別の顔をしてやってくる」特定利用港湾指定 « part 2 »

～2024 年 12 月 1 日(日)須崎フィールドワーク & 学習会に参加して～



2024 年 12 月 1 日、須崎市で開催された「2024 平和な港の軍事化は許さないフィールドワーク & 報告学習会」に参加してきました。このイベントは、高知県内各地の港で今、「有事」に備えた軍事利用への準備が進められている中、その現地となる宿毛市と須崎市に行って実態を学ぼうというもので、「草の家」の主催です。(宿毛ツアーは 11 月 24 日に実施。前回の「草の家だより」参照)

当日は約 30 名が参加し、まず、同市の野見にある「戦争遺跡」を見学しました。須崎には大戦末期、海の特攻兵器「震洋」と「回天」の基地があり、今回見学した場所は、その海軍が設置した弾薬室と送電施設の跡です。路上の脇に掘られた大きな三つの穴（写真はそのうちの一つ）は、この地に戦争が確かにあったことを物語っていました。

その後、場所を同市内の高岡教育会館に移動し、報告学習会が行われました。まず、「草の家」研究員の福井康人さんから午前中に見学した戦跡の解説があり、「戦時中の愚かな歴史を繰り返そうとしているのが、現在進められている須崎の『軍港化』である」と、過去を知ることが現在の問題点を理解する前提となることが訴えられました。次に、杉山愛子須崎市議から報告があり、「国が主導する戦争への準備は、須崎市でも進められている。だが、それに反対する住民運動にも国は注視している」「須崎市を『加害の港』にさせてはならないと副知事に要請した」との報告がありました。

最後に、「草の家」の岡村啓佐副館長による講演が「戦争は別の顔をしてやってくる」と題して行われました。岡村副館長は、まず「高知の『軍港化』計画は 30 年ほど前からすでに始まっており、長い時間をかけて準備が進められた」ことを宿毛市の事例を示しながら説明し、これらは「安保法はじめ近年進められた国政レベルの『再軍備化』のプロセスと軌を一にしている」ことを指摘。そして、その最終目的が憲法 9 条という「本丸」を陥落させ、アメリカとともに戦争できる国づくりをすることにあるという解説は、安倍、菅、岸田政権が進めてきた軍拡路線が石破内閣になっても確実に進められていることへの危機感を再認識させました。

「軍港化」賛成派の中には、「中国や北朝鮮から日本を守るための対策ならよいではないか」や「日本もアメリカに守ってもらってばかりではなく、自衛隊を派遣して国際貢献せねば」という考えを持つ人も多いと思います。しかし、高知県下で、そして国政で今進められている再軍備プロジェクトは、決して国防でも国際貢献でもない「アメリカとともに加害者になる」ためのものです。高知県を再び特攻基地のような「加害の地」にさせぬよう、私たちは、その点をしっかり認識したうえで戦争反対を訴えねばならないと感じた見学会でした。



(森本琢磨)

「国防と人権」(石垣・宮古島へ沖縄・高知連帯ツアー)

須崎港の軍港化に反対する会・共同代表 柿谷 望

昨年、高知県の3つの港（高知港、須崎港、宿毛湾港）が特定利用港湾に指定されたことに抗議して、県内各地で行われた「映画『戦雲』上映会」。その関連企画である「沖縄・高知連帯ツアー」（2/28～3/3）に参加した。映画で観た、石垣島や宮古島の現状はどうなっているのか。現地の方の話や、それらが今後の私たちにどう影響してくるのか。私たちはどう考え、動くべきなのかを学ばなければいけない。そう強く思い、参加を決めた。



石垣島では、まず初日に「石垣島の平和と自然を守る市民連絡会」の事務局長 藤井幸子氏より、石垣島に自衛隊基地が作られた歴史的背景や、それに対する地域住民と国、自治体とのやり取りの様子、また自然環境への影響などのレクチャーを受けた。翌日の午前中、藤井氏の案内のもとで戦跡や自衛隊石垣島駐屯地の見学（敷地外から）をした。正門に立つ隊員の手にはライフルが握られており、それだけでこの地が安全でないことを物語っていた。

午後は自由時間であったが、14時より市民連絡会がスタンディングを行うというので、急遽参加をした。藤井氏の紹介により、下元さんと私がマイクを握り、平和への訴えをさせていただいたことは、貴重な機会であった。

3日目には宮古島へ移動。「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会」の共同代表 上里清美氏の案内のもと、陸上自衛隊及び航空自衛隊宮古島駐屯地、保良訓練場などを敷地外から見学。さながら映画の「聖地巡り」のような行程であったが、内容は極めて深刻である。石垣島でも見たが、駐屯地内に作られた弾薬庫。ここには最も危険な種類の弾薬が保管されており、ここが火災になれば消火はせずに2分以内に1キロ以上避難しろとの通達が防衛省から自衛隊にあったとのこと。しかし、それは地域住民には知らされていないのだとか。航空自衛隊駐屯地には、トラックに載ったPAC3が遠くからでも確認できた。

駐屯地のすぐそばで農業をされている地域住民の方から伺った以下の話が、この旅のハイライトである。

「憲法で保障されている人権なのに、国防になると“人権を語るのはどうなのかな？”というジャーナリストもいる。基地問題は一番命に関わることなのに、一般市民も基地問題と人権は別問題だと考えているのかなと。自分たちの命に関わる問題だから、人権はもっと大きい声を出すべきだと思う。」この国で最も大切な「人権」が、国防の話になると最も優先度が下がるという現実。果たして国家が防衛したいものとは何なのだろうか。そして、私たちが最も守らなくてはならないものとは何なのだろうか。地域住民の言葉が胸に深く突き刺さった。

「粘り強く!! たのしく!!」草の家の新年会

新年会のお餅つきに、小学生の息子と参加させて頂きました。当日1月27日(日)は、楽しみではりきっている息子にせかされて、開始時間の10時より小一時間程早く着きましたが、快く、準備から見せて頂く事もできました。もちをつく作業は、まず慣れた方が下準備でついたものを希望者が順番でつかせてもらいました。体の大きさに合わせて杵の大きさも変えるなどし、楽しい時間でした。皆で丸める時には、ご持参くださった苺などが入った物もでき、あんこ入りやおろし和えとともに、美味しく頂いたことでした。息子の感想「お餅をたくさんつけて、たくさん食べられて、楽しくて、嬉しかったです。つくたてのお餅は最高です!」

お餅つきの後には、館内の、戦後すぐに撮られた写真と一緒に見て、息子に「戦争で建物がなくなっている。これが電車通り。」と話した事でした。平和であればこそ、皆で笑いあえる、それを忘れずにいてほしいと思います。

(寺尾賀恵)



草の家の新年会に参加する事は、私の中で年始の一大行事で、出来る限り子どもと共に決めています。今年、無事参加出来た事嬉しく思います。ありがとうございました。

今年の新年会も、草の家にゆかりのある沢山の方が参加し、餅つきやおでん、沢山のいろんなご馳走を囲んで賑わっていました。老若男女問わず、皆が集まり、餅つきをし、ご馳走を食べ、歌ったり演奏したり、何て平和な事でしょう。平和の根源。

物静かで熱心な祖母と違い、私は悲惨な過去を生々しく残している貴重な草の家の本髄には目を背けてしまうのですが、皆と語らい、食べて歌って踊っての平和な集まりが好きで、なかなか足を運べなくなった今でも新年会は楽しみにしています。

会合や、貴重な資料や物があり、戦争を語れる人もいて、皆で楽しめる場でもある。西森茂夫さんが設立された草の家は、なくてはならない高知の誇れる素晴らしい場所だと思います。

忘れてはならない過去を知り、今後日本が馬鹿な未来を歩まぬよう、無知がゆえ馬鹿な事に自分が加担しないよう、草の家は私を導いてくれる存在です。今年は、母と子と弟家族も一緒に参加する事が出来ました。つたない演奏を温かく聞いてくださりありがとうございました。子ども達も楽しんでいました。また来年も参加させてください。祖母(広田瑞恵)はもうすぐ99歳。私には到底及ばない熱い思いを抱いて春野で頑張っています。

(大塚 瞳)

「西森茂夫氏所蔵資料群」の魅力



2025年1月、高知市にある「平和資料館 草の家」の初代館長・西森茂夫氏（故人）の自宅から大量の書籍が「発掘」されました。西森氏が生前に収集した資料の数々です。

これは、西森家が年明けに取り壊しとなるに当たり、その家財を整理する過程で見つかりました。そのことをご遺族から連絡を受けた「草の家」常任理事でもある筆者は、同月10日、西森家で複数の段ボール箱にまとめられたこれらを見分。同日中に筆者のパートに運び、箱の中身をすべて確認しました。

その結果、この書籍群の中には、昭和初期のプロレタリア文学活動を牽引した『戦旗』（全日本無産者芸術連盟の機関誌）創刊号をはじめ貴重な戦前の雑誌が多々あることが分かりました。さらに、その『戦旗』の中には西森氏の筆跡で「寄贈 信清悠久氏所有のもの」という付箋も貼られていました（筆跡はご遺族確認）。「信清悠久氏」とは、戦前、日本プロレタリア作家同盟高知支部のメンバーとして活動し、戦後は映画に関する文化活動に名を遺した人物です。その他にも、戦後すぐに発行された当時の政治的背景等がわかる著作物などもありました。

総じて、これらは「西森茂夫氏所蔵資料群」と題してよいほどの貴重なラインナップであり、正しく整理・保管・研究・教育普及されるべきと考えた筆者は、1月30日、「草の家」常任理事会でそのことを提起しました。話し合いの末、「草の家」として調査していこうということになり、筆者もそのメンバーとして2月7日から資料の記録と撮影を開始。その結果、資料は雑誌、書籍、その他含めて300点以上に及ぶことが分かりました。

資料群の中には、日本プロレタリア文化連盟の機関誌『大衆の友』1932年11月号、全日本無産者芸術団体協議会の『ナップ』1931年9月号、日本プロレタリア作家同盟が発行した『プロレタリア文学』の1932年から翌年にかけての7冊など、戦前に暗黒政治に抗った人々の息吹を伝える資料もありました。『大衆の友』と『プロレタリア文学』は、高知出身の反戦詩人・楨村浩がその作品を掲載したことで知られています。

これらの資料は、治安維持法公布から100年の今年にこそ「戦争と軍国主義に抵抗した人々の遺産」として活用すべきと考えます。「草の家」では、毎年夏に「戦争と平和を考える資料展」を開催しており、2月21日に行われたその第1回実行員会で、筆者は本資料群の公開を提案しました。その結果、同資料展で設置予定の「戦争に反対した人々」のコーナーでこれらを展示しようということになりました。このコーナーは筆者が担当するので、治安維持法100年の説明とともにそれに抗った人々の関連資料として本資料群を紹介する予定です。

（森本琢磨）

「9 条の碑をつくるこうちの会」(仮称)

熱心に準備会重ね 2 年後に建立へ

昨年 11 月に草の家で発表した「9 条の碑」をつくろうという呼びかけは、各団体の共感を呼び準備会を重ねてきています。

「9 条の碑をつくるこうちの会」(仮称)の結成会を 6 月に予定し、国際ジャーナリストの伊藤千尋さんに記念講演をお願いする方向で準備に入りました。

戦後 80 年・被爆 80 年を迎えた今、「戦争放棄」の 9 条がなぜ生まれたのか、その理由さえ忘れられようとしています。人の心や社会の空気がずさんだとき、人類の理想とは何か、人はいかに生きるべきかを考えさせてくれるのが憲法 9 条です。

ロシアのウクライナ侵略、イスラエルのパレスチナへの無差別攻撃など、地球上で戦争が絶え間なく繰り返されています。もし、ロシアに、イスラエルに、9 条があったとしたらあのような戦争は起きなかったのではないかと。9 条をモノサシに今こそ日本と世界、そして未来を考えるときです。

2 月 28 日～3 月 3 日と「沖縄・高知連帯ツアー」という事で、自衛隊駐屯地建設が強行され、島民を騙し打ちにしてミサイル基地化した、石垣島と宮古島を見学してきました。(詳しくは「国防と人権」の記事参照)



宮古島カママ嶺公園の 9 条の碑です。
沢山の子どもたちが手で触れる場につくれたらと思いました。

80 年前、戦禍は沖縄本島だけでなく、石垣島、宮古島では「戦争マラリア」で多くの島民が犠牲を強いられ命を奪われました。二つの島には「戦争放棄」の 9 条の碑があります。しかし、島民の多くは今「国防」「防災」の名で騙され、ミサイル基地として強化されているのです。

「戦争放棄」の 9 条の碑は、建設を自己目的とするものではありません。多くの市民とともに、現在と未来に対して 9 条を守り「人権」を活かしていく運動として呼びかけていきたいと思います。

(岡村啓佐)

ご案内

第 5 回榎村浩碑前祭

日時 2025 年 6 月 1 日(日)

午前 11 時～

場所 高知市桜馬場・江ノ口川ほとり

(高知弁護士会館北へ約 100m)



「第 4 回榎村浩碑前祭」(2024.6.1) より

槇村浩描く脚本(映画・演劇)を文学館に寄贈

戦前に高知県に生まれて国際的な視野で反戦詩を書き 26 歳で亡くなった槇村浩（本名吉田豊道）は、これまで映画や演劇の主人公になってきました。このほど、それらの脚本 5 本が揃ったので、新年度になったら高知県立文学館に寄贈する予定です（写真下）。5 本は次のようなものです。

- ① 大垣肇作『青春一時はわれらに辛かりきー』劇団仲間第 49 回公演、東京有楽町・読売ホール、1970 年 6 月 26 日～7 月 2 日
- ② 土佐文雄原作『人間の骨』監督木之下晃明、1978 年 5 月 11 日公開
- ③ 大垣肇作・森脇辰彦脚色『詩人M』関西高校演劇部（岡山市）、1996 年 9 月 22 日・同高校文化祭公演、1996 年 12 月 25 日・高知市公演。脚本は校誌『みかど』復刊 48 号に収録
- ④ 西森良子作・演出『反戦詩人 槇村浩』劇団 the・創第 13 回高知公演、2013 年 9 月 7 日・県立美術館ホール公演
- ⑤ 西森良子作・演出『反戦詩人 槇村浩』劇団 the・創公演、2018 年 8 月 25 日、第 64 回日本母親大会 in 高知のオプション企画。槇村以外の反戦活動家が登場する。

槇村を主人公にしたこれらの脚本が公的施設で永久に保存され、活用されていくことを願っています。



「草の家」研究員 馴田正満

2024 年 12 月 1 日以降の動き

- 12/01(日) 「軍事化反対フィールドワーク in 須崎」(34 名)
- 12/07(土) 第 12 回朝倉陸軍墓地忠霊塔調査(朝倉陸軍墓地忠霊塔 9 人)
- 12/07(土) 雇用支援機構労働組合(草の家・四国四県の組合員のみなさん 37 名・岡村館長)
- 12/08(日) 12・8 平和のつどい(こうち男女共同参画センター・ソーレ 約 200 名)
- 12/10(火) 高知医療生協・前浜掩体壕群～震洋隊殉国慰霊塔ほかフィールドワーク(松村 20 人)
- 12/13(金) 兆民忌(筆山の中江兆民親族の墓地の清掃 6 名)
- 12/17(火) 事務局会議(草の家)
- 12/19(木) 第 1 回理事会(参加 16 名)、「望年会」(参加 22 名)
- 12/19(木) 憲法アクション「19 行動」(中央公園)
- 12/20(金) 「草の家だより」165 号 発送
- 12/21(日) 「民権風(土佐風)」づくり(自由民権記念館)
- 12/24(金) ビキニ訴訟第 10 回口頭弁論(高知地裁)
- 12/24(金) 高知憲法アクション呼びかけ人会議(岡村)
- 12/27(金) 草の家・大掃除(10 名)
- 12/28(土) 第 13 回朝倉陸軍墓地忠霊塔調査
- 01/04(土) 「民権風(土佐風)揚げ」(鏡川北岸・トリム公園 20 名)
- 01/06(月) 生活と平和を守る高知市民の会・事務局会議(出原)
- 01/13(月) 第 14 回朝倉陸軍墓地忠霊塔調査
- 01/15(水) 「『九条の碑』建立するこうちの会(仮称)準備会」(草の家)
- 01/18(土) 日本被団協・ノーベル平和賞受賞「受賞祝賀会」(高知共催会館 130 名)
- 01/19(日) 室戸へのフィールドワーク(「ビキニデー in 高知 2025」実行委員会主催 20 名)
- 01/20(月) 高知憲法アクション呼びかけ人会議(岡村)
- 01/20(月) 憲法アクション「19 行動」(中央公園)



- 01/20(月) 香美市甫喜ヶ峰の聴音壕・レーダー（電波警戒機）基地跡への看板設置について協議
森林環境整備課・香美市生涯学習課に看板文案提示（大原・出原）
- 01/23(木) 無天忌（植木枝盛墓地での墓前祭・小高坂市民会館集合 7 名）
- 01/24(金) 秋水忌（幸徳秋水刑死 114 年・坂本清馬没後 50 年記念合同墓前祭 100 名）
正福寺（四万十市中村）境内にて「無実の碑」除幕式
記念講演：山泉進氏「坂本清馬の人間像」
金子武嗣氏「幸徳秋水の再審請求の 10 年間の軌跡」01/25(土) 「安保 3 文書」を考える講演会（香美市革新懇・岡村副館長）
- 01/26(日) 草の家・新年会（約 40 名）
- 01/28(火) 事務局会議（草の家）
- 01/30(木) 常任理事会（草の家）
- 02/02(日) 「安保 3 文書」を考える講演会（高知市東部 9 条の会・岡村副館長）
- 02/11(火) 『『建国記念の日』に反対し日本の今と未来を考えるつどい』（高知城ホール）
- 02/13(木) 民権史跡めぐり「五日市憲法に会いに行こう」（東京都あきる野市～15 日迄）
民権友の会・「民権 150 年」高知県実行委員会共催（15 名）
- 02/16(日) 第 15 回朝倉忠霊塔調査
- 02/16(日) 生活と平和を守る高知市民の会・学習会
「過去の地震・津波から考える事前の備え」（オーテピア高知図書館・集会室）
- 02/17(月) 西川武男さんから超大型の「大東亜要図」地図や「興亜詳細大地図」などを受領
- 02/21(金) 「第 47 回戦争と平和を考える資料展」実行委員会（草の家）
- 02/21(金) 「ピースウェイブ 2025」第 1 回実行委員会（草の家）
- 02/22(土) 「戦争を止めよう！ 沖縄・西日本ネットワーク」結成（草の家も加盟し、WEB 参加）
- 02/24(月) 「語ろう、子どもと教育～参加と共同の学校づくり・教育課程づくり交流集会」
「憲法と平和教育」での講演（出原・オンライン）
- 02/25(火) 「憲法 9 条の碑」を建立するこうちの会（仮称）準備会」第 2 回準備会（草の家）
- 02/25(火) 事務局会議（草の家）
- 02/26(水) 中越啓子さんから「治安維持法」関係など戦前・戦中・戦後の貴重な資料受領
- 02/27(木) 常任理事会（草の家）
- 02/27(木) 2025 年 3・1 ビキニデー集会（～3/1 迄 静岡県焼津市）
- 02/28(金) 沖縄高知連帯ツアー（～3/3 迄）
- 03/01(土) 第 16 回朝倉忠霊塔調査
- 03/14(金) 「戦後 80 年企画『箕牧智之さん講演会』」高知県生活協同組合連合会主催
（高知県立美術館ホール）
- 03/15(土) 室戸へのフィールドワーク第 2 弾（「ビキニデー in 高知 2025」実行委員会主催）
- 03/15(土) 香南市市民参加演劇公演「海の木馬」（香南市夜須公民館マリンホール ～16 迄）

「2025 年度総会」のご案内

と き：2025 年 5 月 18 日(日) 14:00～

と ころ：平和資料館・草の家

内 容：① 沖縄・高知連帯ツアー報告

② 総会議事

③ 交流会



2024 年度総会（2024.6.1）より